

グリーン・ツーリズム施設による地域経済への波及効果

誌名	千葉大学園芸学部学術報告
ISSN	00693227
著者名	栗原,伸一 大江,靖雄
発行元	千葉大学園芸学部
巻/号	56号
掲載ページ	p. 97-105
発行年月	2002年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



グリーン・ツーリズム施設による地域経済への波及効果 —長野県飯山市における地域産業連関分析—

栗原伸一・大江靖雄
(園芸情報処理学研究室)

Estimating the local Economic Impact of Farmhouse Accommodation in Iiyama-city

Shinichi Kurihara, Yasuo Ohe
(Laboratory of Agricultural Information Science)

Abstract

The purpose of this paper is to evaluate the local economic impact of this accommodation. To this end, we have used the Regional Input-Output Analysis in Iiyama-city where farmhouse accommodation is concentrated most. The following were clarified:

1. The lodging business industry in Iiyama-city is twice the size of the lodging business industries in the other cities in Nagano Prefecture.
2. Skiing accounts for 70 percent of the tourists who visit Iiyama-city. However, they do not spend as much as visitors to other resorts.
3. Visitors of farmhouse accommodation spent seventeen thousand yen per capita, more than twice that of skiing visitors.
4. If the mean operating ratio of accommodation increases to 30 percent, then the direct economic effect to this area will be twenty-seven billion, two hundred million yen.
5. The comprehensive economic effect to this regional economy by the farmhouse accommodation industry will be thirty-three billion, eight hundred million yen, which is 1.24 times larger than the direct economic effect.

1. はじめに

緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動、いわゆる「グリーン・ツーリズム」が最近話題となっている。日本交通公社の調べ〔1〕によれば、いってみたい旅行タイプとして自然観光型が2位にあげられており（1位は温泉旅行、3位はグルメ）、また農林漁業体験型の旅行にも4人に1人が「旅行したい」と答えている。このように、近年の労働時間短縮や価値観の変化などから、旅行の目的もこれまでの温泉や観光から、自然景観やくつろぎ型へと変わってきた。また、1995年4月には「農山漁村滞在型余暇活動促進法」（以下、グリーン・ツーリズム法）が制定されるなど、グリーン・ツーリズムの推進体制の

整備も本格化しており、余暇空間としての農村への期待は高まっている。本研究は、こうしたグリーン・ツーリズムを経済学的な視点からとらえ、農林漁業体験民宿（以下、体験民宿）を中心としたグリーン・ツーリズム施設による地域活性化の効果を数値で明らかにするものである。具体的には、そのケース・スタディとして、国内で体験民宿が最も集中している長野県飯山市を対象に、産業連関分析を用いて当該施設の地域への経済波及効果を計測する¹⁾。

2. グリーン・ツーリズムと経済効果

(1) グリーン・ツーリズムと体験民宿

我が国において「グリーン・ツーリズム」という用語が政策に初めて登場したのは、1992年6月に農水省が公

表した、いわゆる新政策の中であった。地域全体の所得の維持・確保を図るための振興策として位置づけられたのである。その後、1998年12月の農政改革大綱、1999年7月の食料・農業・農村基本法、2000年3月の食料・農業・農村基本計画など、一連の重要な農政計画において、次々と都市・農村交流促進の中心策としてその推進が図られるまでになった。

こうした中、先のグリーン・ツーリズム法に基づき1995年7月に開始された農林漁業体験民宿業者登録制度であるが、登録数は2000年8月現在で722件に達している。体験民宿とは、登録することによって運営主体である都市農山漁村交流活性化機構（旧体験協会）から、次のような都市住民へのPR活動や経営支援活動が受けられるというものである。

①PR活動：ホームページやガイドブック（「全国体験民宿ガイド」）、FAX情報サービス、地域情報誌（「田舎おもしろ体験の旅（年2回）」）での紹介といった広報活動の他、企業・団体に対しての体験民宿利用の働きかけ、シンポジウムの開催など。

②支援活動：保険や共済の整備、長期低利融資の紹介、新規開業や経営マニュアルの提供、施設・料理・インストラクター育成に関する資料（ビデオ）提供、研修会の開催や講師派遣、会報発行など。

ただし、登録する民宿には、農林漁業者等が運営し、農林漁業体験の指導等のサービス、地域の農林漁業との調和、地域の農林水産物の食材としての活用、希少な野生動物等の生態に留意、等の適性営業規程に従って営業を行うことが義務づけられる。登録手数料は3万円（3年間）、登録体験民宿の標識（農林水産大臣承認）貸出料金が1万円である。

登録数を農政局管轄の地域別に見てみると、北海道が17件、東北79件、関東275件、北陸171件、東海33件、近畿55件、中国・四国44件、九州42件、沖縄6件となっており、県別では長野が187件と最も多く、2位の新潟95件を大きく引き離している。また市町村別では、長野県飯山市が75件と最も多く、同じく長野県の白馬村62件、新潟県の塩沢町29件、群馬県の片品村25件が続いており、スキー民宿がその母体となっている場合が多いことがうかがえる。本研究は、こうした我が国グリーン・ツーリズム振興策の柱の一つである体験民宿が、当該地域においてどの産業へどの程度の経済効果を及ぼしているのかを評価するものである。そのため、調査対象地としては体験民宿が集中している地域の方が適していると考え、飯山市を選定した。

(2) グリーン・ツーリズムの経済効果

グリーン・ツーリズムを経済側面からとらえれば、「農山漁村を訪れた都市住民に豊かな自然や文化、歴史資産を提供し、その対価を得る活動」といえる。また都市と農村との間の所得格差を是正する手段として見た場合、これまでのような国庫補助金や地方交付税交付金といった財政チャネルを通じた方法に比べ次のようなメリットがある[3]。政府や自治体を通して都市から農村へ所得を再配分する場合、最終的には都市部の企業が受注してしまうことが多い上、都市の納税者には何の見返りもない。それに対し、グリーン・ツーリズムや関連施設で行われる農産物の売買は市場を通じた経済活動であるため、そこで落とされる貨幣は地域の農業者や関連業者の所得となり、需要者側つまり都市住民にとっても、くつろぎや体験、農産物を得るなど、効用が増加することになる。つまり双方に便益が発生し、社会全体の厚生水準が増加するのである。

そして市場を通じた経済活動であるということは、様々な産業と関連し、波及効果を持っているということになる。それは例えば、来訪客→グリーン・ツーリズム産業（宿泊施設、観光・体験施設、食堂・レストラン）・農産物や土産（農林水産業、加工業、飲食、小売業）→労働者の家計→地域内の各産業への消費需要への支払い→各産業の生産を誘発、といった流れである。本研究では、こうしたグリーン・ツーリズム施設の一つである体験民宿の地域経済への波及効果を産業連関分析によって、その大きさを数値で明らかにする。

3. 調査分析の対象と方法

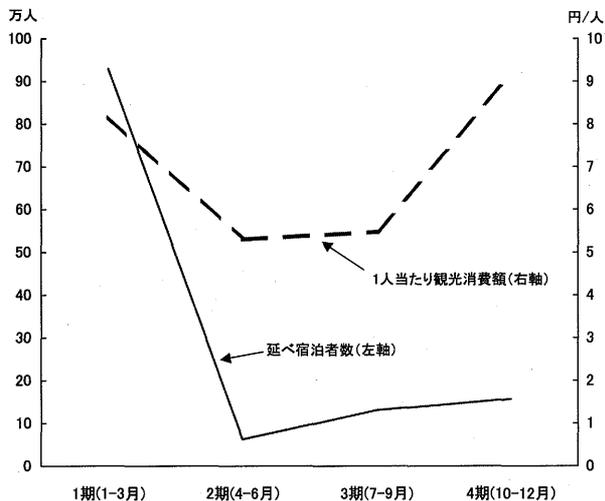
(1) 調査地の概要

本調査・研究の対象となる飯山市は、総人口が27,423人（1995年）、総面積が202km²で、長野市より北へ36kmの新潟県との県境に位置している[4]。市域は、関田・三国山脈に連なる山系に囲まれ、南から北に流れる千曲川の沖積地を中心とした田園地帯と中山間地帯とで構成されている。冬は最深積雪平均が平地で142cm、山間部では450cmを上回る日本有数の豪雪地ということもあり、スキーを中心とした観光と農業が基幹産業となっている。近年、上越自動車道の豊田飯山ICや、北陸新幹線の延長などもあって東京からの所要時間が短くなった（車で3時間、鉄道で2時間半）ものの、いわゆるバブル経済やスキー・ブームの終焉と共に年間観光入込数は大幅に減少しており、1993年の186万人をピークに、（長野オリンピックの年を除けば）毎年1割ずつ減少している状況にある。また飯山市のもう一つの基幹産業である農業で

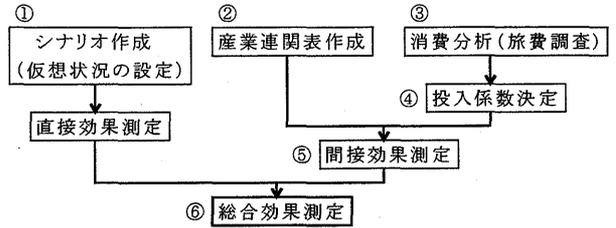
あるが、全世帯数に対する農家率は45%（1995年）で、専業・1種兼業農家比率も34%と比較的高い。66億円の粗生産額（1996年）のうち、野菜と米がそれぞれ4割近くを占めており、花きの7.5%が続いている。中でもアスパラガスは米に次ぐ生産額で年間16億円を超えており、全国でもトップの栽培面積を誇っている。しかしながら、こうした農業部門も他の中山間地域の例に漏れず、高齢化と農家人口の減少は顕著で、『農業活力図鑑』[5]によれば農業活力も「低下・中」と評価されている。

(2) 活性化への課題と分析方法

長野県のまとめた統計²⁾によれば、飯山市における1995年の延べ宿泊客数は130万人で、その観光消費額は約100億円であった。しかし期別に見れば、その大半がスキー客であることが影響し、第1図のように1期（1月～3月）が93万人、2期（4月～6月）が6万人、3期（7月～9月）が13万人、4期（10月～12月）が16万人と、季節によって大きな開きがある。また、他の観光地に比べ客単価も大変低く、1人当たりの観光消費額は年間平均で8千円となっている³⁾。よって飯山市における体験民宿を中心とした地域活性化のためには、4月から12月にかけてのオフシーズン中の宿泊客数の確保、および1人当たりの観光消費額のアップを図ることが重要であると考えられる。なお本研究は、どのようにして付加価値の高い通年型体験民宿の経営を成功させるかといった課題解決を検討するものではなく、その前段階として、理想的な状況が実現された場合、当該地域にどの程度の経済効果をもたらされるのかを把握するものであることを改めて断っておく。



第1図 飯山市期別宿泊観光者数と消費額(平成7年)
出所：『観光地利用者統計調査結果』（長野県商工部観光課）



第2図 地域経済波及効果の測定手順

実際の調査・分析手順は次の通りである(第2図参照)。

- ① 体験民宿活性化のシナリオ作成
- ② 飯山市産業連関表の作成
- ③ 体験民宿利用客の消費額調査
- ④ ③の結果から投入係数の決定
- ⑤ 間接(波及)効果の測定
- ⑥ シナリオ毎の総合効果測定

4. シナリオと地域産業連関表の作成

(1) シナリオ設定

通年型の体験民宿経営が成功したと仮定し、年間の宿泊客の増加数を実現可能レベルによって4種類設定する。最も宿泊客の多い1期の93万人を通年で確保できると仮定すると、年間の宿泊者数は372万人となり、現在より142万人の増加が見込める(仮想1)。また、より現実的な数値として1期の半数を2～4期に確保できると仮定すれば102万人増の232万人(仮想2)、3分の1を確保できると仮定すれば56万人増で186万人の観光宿泊者数を見込めることになる(仮想3)。また、これとは別に宿泊施設の稼働率から算出したより現実的なシナリオをもう1つ設定しておく。現在、飯山市で体験協会にFAXサービスの登録をしている民宿は23件あるが、これらの年間平均稼働率は10%程度で、最大の所でも27%であることが分かっている。民宿の年間宿泊受入可能人数は平均25,500人程度であることから、飯山市内に存在する全ての「旅館・その他の宿泊所」219件(事業所統計[7]より)が全て30%近い稼働率を達成したとした場合、25,500人×0.3×219件で、160万人強の宿泊者数が見込めることになり、先の仮想3の186万人をやや下回る設定となる(仮想4)。

本研究では、これら4つの活性化シナリオの経済波及効果を現状の値と比較することになるが、現状値として、宿泊客1人当たりの旅費を現在の平均である8千円としたものと、後述のアンケートから求めた1万7千円にしたものとの2つを設定しておく。

第1表 平成7年飯山市産業連

(大分類)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	農 林 水産業	鉱 業	製 造	建 設	電力・ ガス・ 水道	商 業	金融・ 保険	不動産	運 輸	通信・ 放送	公 務	サービ ス	旅館・ その他 の宿泊 所	分 類 不 明	内 生 部 門 計	家計外 消費支 出	民間消 費支出
1 農林水産業	161,821	6,539,075	16,025	-	523	-	3	138	-	62	61,073	30,223	-	808,945	12,885	501,361	
2 鉱業	-	101	-	78,226	-3	-	-	-	-	15	3	-	32	120,248	-	5	
3 製造	131,568	3,083,118,279	852,270	15,940	33,565	19,519	5,458	91,865	6,789	46,967	317,783	64,666	11,448	4,370,793	39,542	1,244,894	
4 建設	2,647	532	-	12,654	23,363	13,862	3,410	63,846	141,427	4,531	15,004	26,766	2,148	-	227,505	-	
5 電力・ガス・水道	6,280	1,824	-	32,740	59,786	33,554	4,524	3,557	37,548	5,252	25,011	86,370	24,497	1,713	488,606	53	191,232
6 商業	32,367	1,187	10,406	270,028	5,897	21,386	4,930	2,357	47,480	1,765	10,206	156,129	29,513	2,931	1,136,340	47,485	1,274,074
7 金融・保険	9,309	1,445	-	19,079	6,067	45,068	32,403	34,733	108,251	2,365	870	36,064	12,308	10,372	301,917	3	86,997
8 不動産	61	222	-	4,365	1,599	25,153	5,418	3,048	8,130	2,195	367	18,438	3,800	702	81,679	-	33
9 運輸	6,496	656	1,391	72,543	5,662	53,580	19,219	603	85,374	4,488	14,071	34,975	19,713	1,167	457,284	8,371	533,876
10 通信・放送	222	163	-	17,339	1,649	27,504	11,451	539	5,408	16,420	6,600	26,117	2,839	111	137,052	2,375	103,622
11 公務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,460	16,460	-	28,538
12 サービス	3,674	1,436	-	182,395	20,966	47,734	37,495	9,852	99,178	23,525	24,291	141,288	8,639	4,424	770,735	142,495	1,108,308
13 旅館・その他の宿泊所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	357,395	459,987
14 分類不明	6,160	1,056	7	7,904	3,107	9,367	3,443	11,488	24,880	2,912	10,328	21,404	1,805	-	156,249	-	468
15 内生部門計	287,435	35,371	51,032	2,130,945	212,455	574,779	253,281	190,990	930,587	114,946	184,065	1,400,597	226,038	70,520	12,453,430	546,185	7,363,591
16 家計外消費支出	12,885	-	-	-	53	47,485	3	-	8,371	2,375	-	142,495	357,395	-	546,185	-	-
17 雇用者所得	127,662	23,772	-	1,392,590	88,831	970,109	135,475	11,018	320,746	78,049	566,955	1,057,922	278,750	4,434	7,436,941	-	-
18 営業余剰	476,482	20,589	-	178,312	82,948	198,175	55,185	109,431	289,166	24,927	-	165,573	73,793	62,667	2,614,942	-	-
19 資本減耗引当	167,346	9,328	-	233,908	108,382	100,081	34,992	78,808	305,265	51,559	20,672	174,219	80,365	8,956	2,191,233	-	-
20 間接税(除関税)	52,971	5,962	-	107,577	36,052	81,064	14,592	16,035	77,864	9,870	1,031	61,432	33,889	1,273	815,007	-	-
21 (控除)経営補助金	-15,766	-45	-	-12,676	-1,271	-2,683	-14,110	-623	-17,639	-76	-	-15,696	-598	-75	-106,187	-	-
22 粗付加価値部門計	821,581	59,606	-	1,899,712	314,996	1,394,231	226,137	214,669	983,773	166,703	588,659	1,585,945	823,592	77,255	13,498,120	-	-
23 市内生産額	1,424,841	127,362	-	4,229,524	573,937	1,952,863	346,708	248,319	1,489,247	230,067	850,307	2,303,762	984,163	148,504	25,951,510	-	-

(2) 地域産業連関表の作成

1995年の長野県産業連関表〔8〕を土台に、平成8年事業所・企業統計調査結果報告書〔7〕などの統計資料⁴⁾を使って飯山市の地域産業連関表を作成する。作成手順は以下の通りである⁵⁾。

- ① 産業部門別生産額の推計
- ② 投入額(中間投入・粗付加価値)の推計
- ③ 産出額(中間需要、最終需要)の推計
- ④ 行と列のバランス調整

今回は、「旅館その他の宿泊所」が独立している93部門表(統合中分類)から作成し、順次、38部門表から14部門表(第1表)へと統合していった。その結果、飯山市内の総生産額は2,600億円で長野県全体の1.55%程度であるが、例えば「旅館その他の宿泊所」部門は3.40%と他産業の2倍以上の値⁶⁾となっており、民宿の多い当該地域の特徴が産業連関表に現れていることが確認された。

5. 観光消費額調査と投入係数

(1) アンケート調査

同年型の体験民宿利用客による観光消費を分析するため、2000年11月から12月にかけて体験民宿の宿泊客を対

象に、旅費に関するアンケート調査(資料1参照)を行った。その集計結果をまとめたものが第2表である。なお調査場所は、市内で最も稼働率の高いリーダー的民宿2件で、チェック・イン時に配布し、チェック・アウト時に回収した。

旅費以外について見てみると、まず、スキー民宿的経営の延長もあって旅行代理店を通して予約をしてきた客が多いことが分かる。ただし経営者からの聞き取り調査(資料2参照)では、直接フロントへの予約も増えつつあるようである。また、体験メニューはそのほとんどが「そば打ち」で、単なる宿泊(温泉)の客も半数を超えており、グリーン・ツーリズムと体験メニューは必ずしもセットになっていないことがうかがえる。市内購入品も体験メニュー同様、手打ちそばを土産として購入する者が多く、11月ということもあってか、農産物では鉢植えものが中心であった。移動手段は、同行人数が5~6人ということもあり、大部分が車や無料送迎のマイクロバスとなっていた。

(2) 投入係数の設定と直接的経済効果

調査結果から、宿泊客が1人増えることによって発生する各部門の最終需要を、宿泊費を9千円、飲食費を2千円、交通費を2千円、土産・買い物代を3千円、娯

関表 (生産者価格表・14部門)

(単位：万円)

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	113
一般政府 消費支出	市内総固 定資本形 成(公的)	市内総固 定資本形 成(民間)	在庫 純増	市内最終 需要計	市内需要 合計	移 出	輸 出	移輸出計	最終需要計	需要合計	(控除) 移 入	(控除) 輸 入	(控除) 移輸入計	最終需要 部門計	市内生産額
-	-	31,099	46,022	591,367	1,400,312	884,498	4,038	888,536	1,479,903	2,288,848	-687,028	-176,979	-864,007	615,896	1,424,841
-	-	-19	641	627	120,876	13,050	259	13,310	13,937	134,186	-1,240	-5,584	-6,823	7,114	127,362
3,049	102,753	50,328	34,281	1,474,847	5,845,640	2,666,421	593,223	3,259,644	4,734,491	9,105,284	-4,515,404	-490,061	-5,005,465	-270,973	4,099,819
-1,759,264	2,242,754	-	4,002,019	4,229,524	-	-	-	4,002,019	4,229,524	-	-	-	4,002,019	4,229,524	
25,389	-	-	216,674	705,280	312,360	698	313,058	529,732	1,018,337	-444,386	-14	-444,401	85,331	573,937	
108	14,807	12,285	4,458	1,353,217	2,489,557	530,678	43,010	573,687	1,926,904	3,063,244	-1,106,412	-3,970	-1,110,381	816,523	1,952,863
-	-	-	87,000	388,917	4,859	558	5,418	92,418	394,335	-37,492	-10,135	-47,627	44,791	346,708	
-	-	-	33	81,712	-	-	-	33	81,712	-30,254	-	-30,254	-30,221	51,458	
-427	727	545	671	543,763	1,001,047	527,175	12,292	539,468	1,083,231	1,540,515	-292,540	-7,047	-299,587	783,644	1,240,928
-	-	-	105,997	243,049	1,024	107	1,131	107,128	244,180	-12,669	-1,444	-14,113	93,015	230,067	
805,308	-	-	833,846	850,307	-	-	-	833,846	850,307	-	-	-	833,846	850,307	
586,314	8,875	2,914	-1,848,907	2,619,641	239,711	6,053	245,764	2,094,670	2,865,405	-532,173	-29,470	-561,643	1,533,027	2,303,762	
-	-	-	817,382	817,382	645,311	35,704	681,016	1,498,397	1,498,397	-361,408	-152,826	-514,234	984,163	984,163	
-	-	-	468	156,717	6,149	1,276	7,425	7,893	164,142	-1,065	-14,573	-15,638	-7,745	148,504	
1,552,978	1,958,629	2,535,893	145,523	14,102,799	26,556,229	8,960,098	1,913,389	10,873,487	24,976,286	37,429,716	-10,275,852	-1,202,314	-11,478,166	13,498,120	25,951,550

第2表 旅費に関するアンケート調査の結果一覧^{注1)}

項目(サンプル数)	カテゴリー	度数	比率	項目(サンプル数)	平均	中央値
調査民宿(23)	石田屋	13	56.5	本人含む同行人数(23)	6.1	5.0
	庚(かのえ)	10	43.5			
旅行企画主体(22)	代理店	9	40.9	総予算/人 ^{注3)} (21)	¥16,109	¥13,333
	個人(本人)	13	59.1			
体験したメニュー(20) ^{注2)}	農業体験	1	5.0	宿泊費/人/泊(19)	¥12,419	¥9,091
	自然食づくり	11	40.0	飲食費/人(13)	¥3,638	¥2,000
	体験しなかった	11	55.0			
市内購入品目(20) [*]	農産物	8	40.0	交通費/人(23)	¥4,990	¥1,667
	加工食料品	18	90.0	土産・買い物/人(19)	¥4,082	¥2,667
	伝統工芸品	4	20.0			
	その他	5	25.0			
市内移動手段(22) [*]	自家用車	15	68.2	娯楽・サービス費/人(7)	¥1,790	¥1,000
	鉄道	2	9.1	その他の費用/人(23)	¥1,321	¥667
	公共バス	4	16.0			
	送迎マイクロバス	4	16.0			

注1) 48件回収され、そのうち有効回答は23件(48%)であった。

注2) ※は複数選択式の質問項目である。

注3) 総予算も独立した質問項目であるため、他の費用を合計したものと必ずしも一致しない。

娯楽・サービス費を1千円と設定した(1人当たり計1万7千円)。これにより投入係数(消費額の変化を産業連関表ベースに配分するデータ)は、農林業0.04, 商業0.14, 運輸0.12, 飲食店0.12, 娯楽サービス0.06, 旅館その他の宿泊所0.53となる。

なお直接効果については、これらの値から単純な乗算によって得ることが出来る。例えば仮想1のシナリオに従えば、1.7万円×142万人で250億円の新たな需要が当該地域に発生することになる。しかしながら、第2節で既に述べたように、地域に及ぼされる経済効果は実際にはこうした直接効果だけではない。観光は地域内の各産

業との連関が強いため生産誘発効果も比較的大きく、地域経済全体へ広く波及効果を及ぼしているのである。例えば民宿などでは、料理材料の仕入れは仕入先(卸売店)の売上げや農林水産業の需要を発生させているし、タオル、化粧品などの客室用品についても仕入れを通じて繊維製品や化学製品などの生産を促していると考えられる。産業連関分析ではこうした生産誘発効果の内、地域内にとどまる部分を算出することになる。

6. 産業連関モデル

地域経済の産業の生産高列ベクトルを X ，投入係数行列を A ，地域内最終需要列ベクトルを Fd ，輸出列ベクトルを E ，移出列ベクトルを Ec ，輸入列ベクトルを M ，移入列ベクトルを N とすると，地域内産業連関表の行バランスは以下のように示される。

$$X = AX + Fd + E + Ec - M - N$$

この式において， Fd ， E ， Ec ， M ， N を与えられたものとする，地域の産業高ベクトルを次のように表すことが出来る（地域内産業連関分析の基本モデル）。

$$X = (I - A)^{-1}(Fd + E + Ec - M - N)$$

このモデルに「移入+輸入」の地域経済活動への依存を考慮した競争移入型地域内産業連関モデルは次のように表すことが出来る。ただし， M は輸入係数行列を， N は移入係数行列をそれぞれ表す。

$$X = [I - (I - M - N)A]^{-1}[(I - M - N) Fd + E + Ec]$$

これから，域内最終需要の変化 ΔFd に対する地域内経済への波及効果 ΔX は，以下のように計算される⁷⁾。

$$\Delta X = [I - (I - M - N)A]^{-1} \Delta Fd \quad \text{.....①式}$$

①式に従って14部門表で分析した結果，「旅館その他

の宿泊所」部門単独への最終需要は，単位当たり農林水産業に0.025，製造業に0.049，商業に0.026，電力・ガス・水道業に0.017，金融・保険業に0.016，サービス業に0.014，…，といった波及（生産誘発）効果があることが分かった。こうした間接的な効果を合計すると，当該地域内の旅館その他の宿泊所への需要は，実際にはその1.18倍の経済効果が現れることになる。これを体験民宿利用客の消費額（投入係数）に沿って計算してみると，観光消費額の単位当たり農林水産業に0.063，製造業に0.058，商業に0.171，運輸に0.147，サービスに0.213，旅館その他の宿泊所に0.520，…，の波及効果となり，合計では直接効果の1.24倍の経済効果となる。ここで，旅館その他の宿泊所，サービス，運輸，商業などへの経済効果が大きいのは当然としても，やはり農林水産業部門への効果が大きいことは注目できよう。これは，一般の大規模なホテルや旅館に比べ，民宿の場合，自ら栽培した野菜や花を販売していることに加え，積極的に地域内から食材を調達していることが影響していると考えられる。

最終的に4種類のシナリオに沿って経済波及効果を計算したものが第3表である。これを見てみると，飯山市内で宿泊する客の消費によってもたらされる総合経済効果は現状で124億円であるのに対し，通年型の体験民宿経営によって高い客単価と年間を通じた宿泊数の確保に成功すれば，仮想1（1期の入込数を通年で確保）の場合で790億円（現状1より666億円増），仮想2（1期の

第3表 体験民宿利用客の消費が飯山市内にもたらす生産波及効果

	現状1	現状2	仮想1	仮想2	仮想3	仮想4	
宿泊客単価	8千円	1万7千円	1万7千円	1万7千円	1万7千円	1万7千円	
年間宿泊者数	130万人	130万人	372万人	232万人	186万人	160万人	
直接効果	100億円	221億円	630億円	400億円	320億円	272億円	
総合効果 ^{注1)}	124億円	275億円	790億円	490億円	390億円	338億円	
産業別総合効果 (億円)	農林水産業	6.3	13.9	39.6	24.7	19.8	17.1
	鉱業	0.1	0.2	0.5	0.3	0.2	0.2
	製造	5.8	12.8	36.5	22.8	18.2	15.7
	建設	1.1	2.4	6.8	4.2	3.4	2.9
	電力・ガス・水道	1.9	4.2	12.1	7.6	6.1	5.2
	商業	17.1	37.8	108.1	67.4	54.1	46.5
	金融・保険	2.1	4.7	13.5	8.4	6.8	5.8
	不動産	0.6	1.4	4.0	2.5	2.0	1.7
	運輸	14.7	32.4	92.7	57.8	46.4	39.9
	通信・放送	0.8	1.8	5.2	3.2	2.6	2.2
	公務	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2
	サービス	21.3	47.1	134.6	84.0	67.3	57.9
	旅館・その他の宿泊所	52.0	114.9	328.8	205.1	164.4	141.4
分類不明	0.6	1.3	3.6	2.3	1.8	1.6	

注1) 総合効果とは，直接効果に間接（波及）効果を加えたものである。

2分の1をオフシーズンに確保)の場合で490億円(366億円増), 仮想3(1期の3分の1をオフシーズンに確保)の場合で390億円(266億円増), 仮想4(年間平均稼働率3割を確保)の場合で338億円(214億円増)の経済効果がもたらされることになる。

以上の分析結果から, 体験民宿を中心としたグリーン・ツーリズムによる地域活性化は, 宿泊施設以外にも, 間接的な波及効果が飲食業などのサービス業や商業, 運輸, 農林水産業, 製造業などを始めあらゆる産業に及んでおり, 結果的には地域経済全体が広く潤うことが分かった。

摘 要

農林漁業体験民宿を中心としたグリーンツーリズムによる地域活性化の経済効果を, 全国で最も体験民宿が集中している長野県飯山市を事例に, アンケートや地域産業連関分析等によって測定した。その結果, 体験民宿利用客1人当たりの消費額は1万7千円程度となり, その年間宿泊者数を現在よりも30万人多い160万人確保できた場合, 飯山市への直接的な経済効果は272億円, 間接的な波及効果を加えた総合経済効果はその1.24倍の338億円となることが分かった。当初, 民宿をはじめとした宿泊施設は生産に直接関わっていないため, それほど大きな波及効果は期待できない可能性もあったが, 農産物の販売や食料品の仕入れなどを通じた生産誘発効果が, 農林水産業や商業, 製造業に対して比較的大きく存在していたことは注目すべきであろう。また, 飲食業をはじめとしたサービス部門に対する波及効果も大きいことから, 今後は, 体験民宿を初めとしたより高付加価値型のツーリズムの確立が地域活性化には肝要であろう。

注

- 1) 本論文は, 農林漁業体験協会(2001年4月より「都市農山漁村交流活性化機構」に改称)が農林水産省からの補助事業(平成12年度「農山漁村でゆとりある休暇を」推進事業)の一環として行った実態調査[2]の結果の一部をまとめたものである。
- 2) 本統計[6]は, 各市町村毎に観光施設, 交通機関, 宿泊施設ごとに照会・調査した結果を県で集計したものである。例えば戸狩温泉地区では, リフトを運営している市の外郭団体「戸狩観光開発」提供のデータなどが基本となっている。
- 3) 1995年から1996年にかけて実施された全国旅行動態

調査(総理府)によれば, 観光消費額は全国平均で1人当たり3万8千円(そのうち宿泊費が1万5千円, 交通費が1万円), また北九州市で近年調査された結果では約2万円/人(宿泊費8.4千円, 飲食費3.5千円, 交通費2千円, 土産3千円, 入場費等3千円)となっている。

- 4) そのほか部分的に, 県民経済計算, 市民所得統計, 国勢調査報告, 農林水産省統計表, 工業統計報告書, 商業統計表などの統計を使用した。資料を提供していただいた長野県企画局や飯山市企画財政課の方々には, この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
- 5) 市町村の産業連関表を作成するに当たっての具体的な手順と方法については, 文献[9]が詳しい。
- 6) 正確には「公務」同様, 「旅館その他の宿泊所」は生産活動は行っていないが, 消費という最終財に用いられたとして, 外生部門の中に組み込まれる。
- 7) 最終需要 ΔF にあたる観光消費額は, 既に飯山市内の消費を前提として推計しているため, 生産誘発額 ΔX を推計する際に市内自給率($I-M$)を乗ずる必要はない。

文 献

- [1] 日本交通公社(2000):『旅行者動向2000—国内・海外旅行者の意識と行動—』
- [2] 日本型グリーン・ツーリズム確立検討委員会(2001):『日本型グリーン・ツーリズム実態調査報告書』, 農林漁業体験協会, pp. 139-148.
- [3] 竹歳一紀・柚原直哉(1997):『グリーンツーリズムによる経済活性化』, 『グリーンツーリズムと日本の農村—環境保全による村づくり—』, 宮崎猛編著, 農林統計協会, pp. 28-43.
- [4] 長野市役所総務部企画課(1998):『飯山市の統計 平成10年版』, 長野県飯山市.
- [5] 農林水産長期金融協会(1996):『全国市町村地域農業活力図鑑』, 農山漁村文化協会, pp. 58-59.
- [6] 長野県商工部観光課:『平成11年観光地利用者統計調査結果』
- [7] 長野県総務部情報統計課(1999):『平成8年事業所統計調査結果報告書』
- [8] 長野県企画局情報政策課(1998):『平成7年(1995年)長野県産業連関表』
- [9] 土居英二・浅利一郎・中野親徳(1996):『はじめよう地域産業連関分析』日本評論社, pp. 41-52, pp. 143-154.

[資料1]

民宿名： _____

体験民宿利用者アンケート（旅費調査）

このアンケートは、体験民宿を中心とした観光が、飯山市にどれだけの経済効果をもたらすかを調査・研究するためのものです。そのため、今回の旅行でかかった費用の内訳について細かくお聞きしますが、なにとぞ趣旨をご理解の上ご協力下さい。

なお調査票は無記名式で、回答結果も統計的に処理され、プライバシーを侵害することは一切ございませんので、全ての質問項目にご記入の程お願い申し上げます。

平成12年 11月 実施主体：(財)農林漁業体験協会

調査主体：千葉大学園芸情報処理学研究室

問い合わせ：03-XXXX-XXXX (ふるさと体験部 ○○△△)

問1 今回の旅行は、(代理店などによる)パック旅行ですか？ また何人で来ましたか？

(当てはまる番号に○印をつけ、[]の中に家族やグループの人数を記入してください)

1 パック旅行 2 自分達で企画 *同行人数(乳幼児は除く): [_____]人

問2 今回の旅行の総予算のうち、飯山市内で使った(予定)のはいくらぐらいですか？

全員合わせておよそ [_____]円くらい

問3 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか？ その泊数と全員分の宿泊費(総額)もお教え下さい。

1 日帰り 2 宿泊 → [_____]泊, およそ [_____]円くらい

問4 この民宿で経験した体験メニューに○印をつけ(複数選択可)、その費用もお教え下さい。

1 体験しなかった 2 農業体験 3 自然食作り 4 工芸品作り 5 スポーツ
例：(野菜の収穫など) (そばや笹ずし) (和紙や竹細工) (ハイキングやカヌー)

→ *体験メニュー費用: 全員分を合わせて [_____]円くらい

問5 その他、飯山市内でお支払いになった全員分の費用(予算)の内訳をお教え下さい。

- ・飲食費が およそ [_____]円くらい
- ・交通費が およそ [_____]円くらい
- ・娯楽・サービス費が およそ [_____]円くらい (入浴や各種入場料など)
- ・土産・買い物費が およそ [_____]円くらい
- ・その他の支出が およそ [_____]円くらい (電話代など)

問6 お土産など、市内で買われた(買う予定の)物に○印を付けてください。(複数選択可)

1 農産物(米やキノコなど) 2 加工食料品(すしやそば、漬物など)
 3 伝統工芸品(和紙や仏壇など) 4 その他 [_____], [_____]

問7 飯山市内での主な移動手段は何ですか？(複数選択可)

1 車・バイク 2 鉄道 3 バス 4 タクシー 5 その他 [_____]

以上で質問は終了です。 ご協力ありがとうございました。

〔資料2〕

アンケート実施民宿経営者への聞き取り結果概要(平成12年11月)

1 民宿名:石田屋

1) 経営

- ・設立:45年前(通年営業は9年前),経営形態:17年前から有限会社
- ・以前は水田農家,現在は全て委託
- ・部屋数:冬期35部屋,夏期(体験期)は25部屋に制限
- ・スタッフ:6人(本人=男60歳,息子,妻,常時雇用女3人)
- ・体験メニュー:「そば打ち」(所要時間1.5時間)のみ,なお,ソバは委託栽培(3ha)
→以前はカヌーもやっていたが危険なので止めた
- ・体験メニューの定員:そば打ちは45人まで(2人が指導可能)
- ・2000年から冬の体験コースも設定
- ・HPは息子(23歳大卒)が担当.予約もHPが優先

2) 客層

- ・スキー客は9年前のピーク時に比べ4割減少,現在スキー客は全体の4割
- ・新規の客が増加中,7割女性,なかでも年輩者が多い
- ・直接フロント予約は1/3(体験客の方が直接予約が多い)

3) 今後

- ・ペンションでは斑尾に負けるため(体験)民宿としての生き方を追求する
- ・団体客から少人数・家族をターゲットに
- ・体験内容等,付加価値によって料金を変動させたい
- ・2002年からの週休2日(学校)に期待

4) 意見・課題

- ・グリーン・ツーリズムと「体験」は必ずしもセットにする必要はない
- ・行政には期待していない
- ・JAのグリーンライフなど,客を直接世話してしまうのは営業努力を削いでしまう
- ・今後,他の民宿を含め経営のスキルアップが必要
- ・農家は忙しいため,体験メニューを行うには作目を絞って時間を作る事が必要
- ・客のニーズに如何に合わせるかが今後の焦点

2 民宿名:庚(かのえ)

1) 経営

- ・昭和47年設立,7年前から通年営業(同時に新築)
- ・体験メニュー:夏は芋掘りや虫取りが好評,カヌー指導はご主人
- ・HPは女将が担当

2) 客層

- ・スキー客は1/3(ほとんどが代理店を通した団体客)
- ・「わんぱく体験」(戸狩の観光企画)の予約も代理店が多い
- ・近県の会社の研修旅行に体験を利用することも多くなった
- ・リピーターは1割程度

3) 課題

- ・自然が相手なので体験メニューを順調にこなすのが大変
- ・都会から田舎だけでなく,田舎から田舎へ等,色々な交流があっても良い
- ・今後はシルバー層がターゲットになるだろう
- ・第3セクターによる体験施設等の存在効果は疑問である